

ビヨンドトゥモロー
東北未来リーダーズサミット



- 被災地の高校生70名による
東北の未来への提言 -

東北を元気にするビジネス、仕事の在り方
～農業における今後の雇用のあり方について～

グループ1

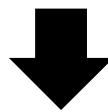
上澤知洋、菊地将大、菊地真未、坂本佑季、
高橋奈々美、中野春佳、三浦悠

問題点

- ①農業に従事する若者が少ない
- ②TPPによる外圧
- ③放射能による東北の作物のイメージダウン

解決策①

農業休暇

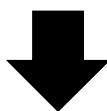


例えば
1週間に1日休むと
企業の税率がA%減



解決策②

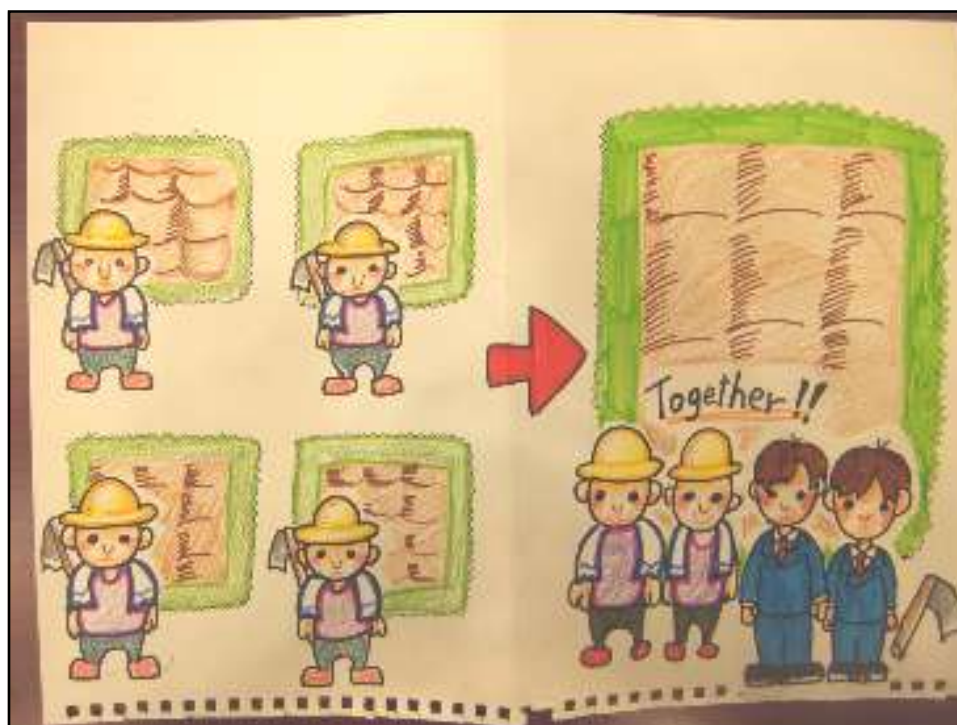
共同農業



個人ではなく地域全体で
農業に従事する。
(例) 農業を株式会社として立ち上げ
地域の人を雇う

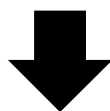


国からの補助



解決策③

学校教育



学校で放射能の値を測定し
東北の農作物のイメージアップ
授業の一環として農業体験してもらう

実施スケジュール

	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
1次アンケート		Plan					内閣府へ 法案提出	
2次アンケート 広報						Do		
2次アンケート							国家予算案会議	
集計								
提言まとめ								
エキスパート 助言依頼								
提言広報								



役割分担

アンケート (学生、農家、企業)	I 期 各自家族や友達に(30人程度)	
	II 期 全員で	
集計	真未、春佳、悠	
まとめ	佑季、奈々美、春佳、真未	
専門家への インタビュー	将大、悠、知洋	
広報	I 期 佑季、知洋	II 期 奈々美、将大
政府へ提出	全員	

提言発表「ビジョンストック」

2班

加藤英介 関本将乃 穀田龍二
伊藤美晴 佐藤可奈子 増子光希 船越絵雅

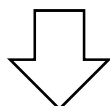
いきなりですが質問です！

この中で、将来的に地元就職しようと思っている方は、手を挙げてください！！

ちなみに2班では、1人だけでした

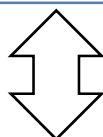
問題点

震災で地域の若者離れが深刻化してる



どうして?

地域に魅力が少ないから

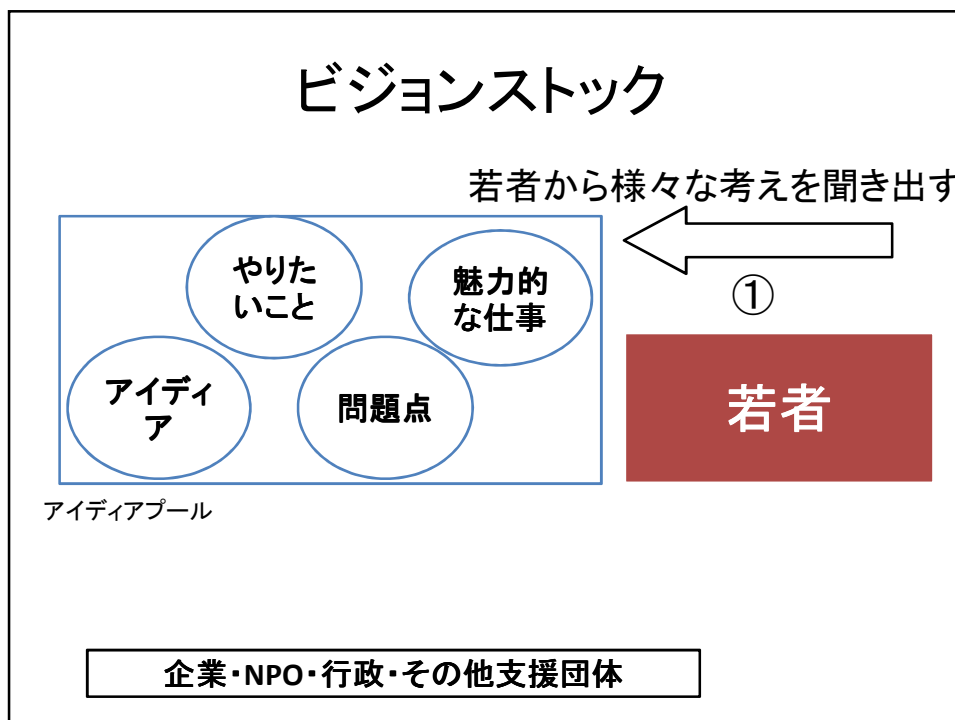
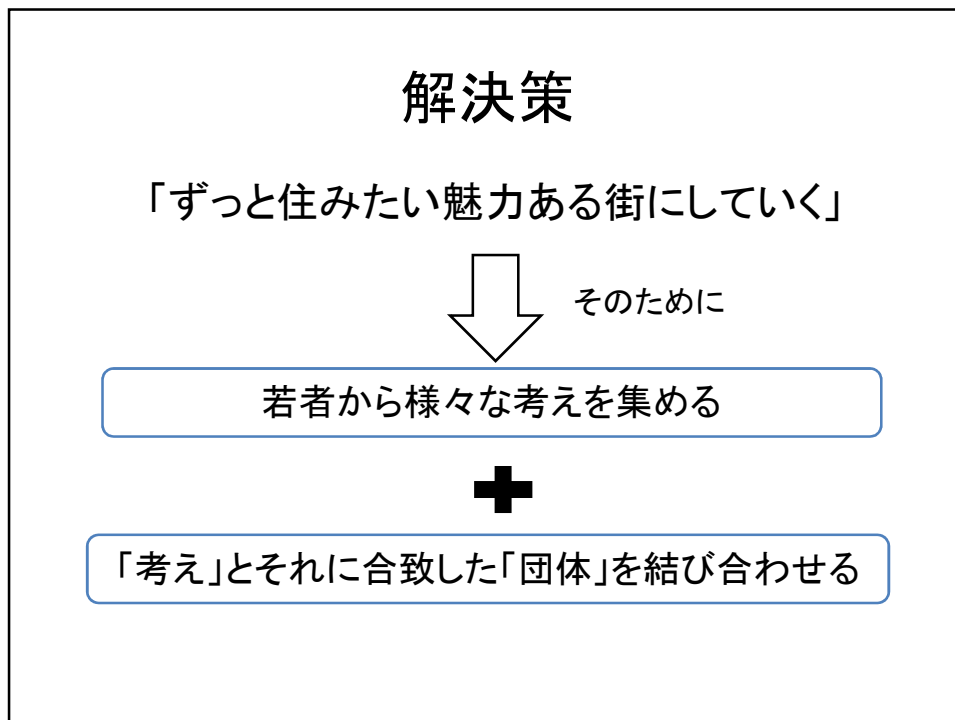


でも

今後、被災地の復興には若者の力が必要!!

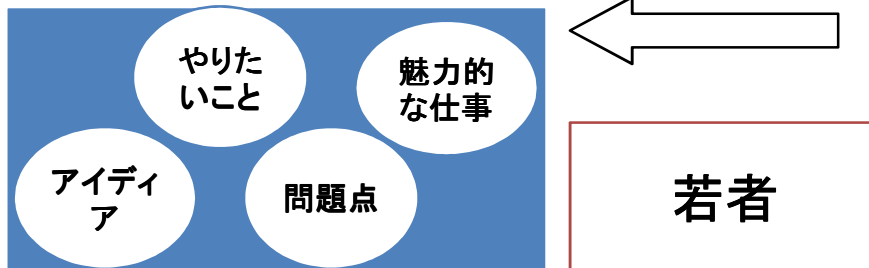
具体例として

友人が部活動を続けられなくなり、やむを得ず都会へと転校していった。(穀田)



ビジョンストック

アイデアプール

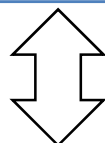
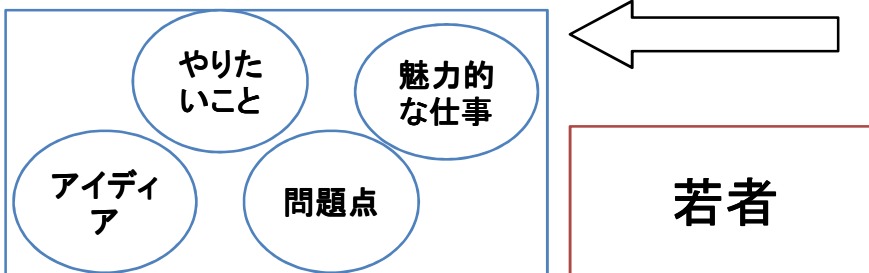


- ② 集めた考えを分野ごとに分けて整理

企業・NPO・行政・その他支援団体

ビジョンストック

アイデアプール



- ③ 考えとそれに合致する団体を探し、その2つを結び付ける

企業・NPO・行政・その他支援団体

具体的な役割分担

- ① **考え集め係**……加藤・穀田・伊藤
地元の気仙沼の高校生に将来の夢についてインタビュー
- ② **管理係**……佐藤・増子
特に、職業についての考えを選び出し、まとめる
- ③ **結びつけ係**……関本・船越
商工会議所や企業にプレゼンテーションし、
学生との結び付きを作る

東北未来リーダーズサミット
～東北を元気にするビジネスや仕事のあり
方～

3班

伊藤大二郎 倉本知邑 佐々木瞳
佐藤拓磨 高橋真彩 千田綾太
新妻聖

東北の復興に必要な産業



→観光業に焦点を当てる

しかし...

震災により観光業はダメージを受ける

例)

- ・観光資源失われる
- ・宿泊施設が使えない
- ・交通インフラがダメージを受ける



BEYOND
Tomorrow

そこで...

新たな観光資源をつくる
例)モニュメント、記念館



世界遺産登録を目指す！



23

情報発信こそ大事！！！！

- インターネット
→ホームページ、YouTube、Twitter、Facebook
- 雑誌発行
- 署名運動

BEYOND
Tomorrow

●プロジェクトメンバーの役割●

●インターネット(ホームページ、YouTube、Twitter、Facebook) :

モニュメント、防災システムについて発信。
HP作成チームは1ヶ月でHPを作成し、
週一で更新をしていきます。
また、HP上で募金活動を行います。

福島担当: 新妻

宮城担当: 佐藤

岩手担当: 伊藤



●プロジェクトメンバーの役割●

●広報:

募金活動で集めたお金を使用して
広報を行います。
2ヶ月に1回雑誌を出版します。
お年寄りを対象とした雑誌も作成します。

担当: 高橋、倉本、千田、佐々木

●プロジェクトメンバーの役割●

●署名運動:

街頭で週一回署名の呼びかけを行います。
全体的な総会を月に数回Skype等で
ミーティングを行います。

担当: 全員

27

最終目標として...

2016年に予定されている
日本でのサミットを東北で開催する



サミットのテーマは
“防災”

※自分達もスタッフとして観光案内を行う

『 強い繋がりを目指す
First step. 差の解消』

チーム4

阿部菜穂 遠藤崇行 菊池翔太 菅原彩加
福田順美 藤田真平 山内留衣

1. 支援に関する需要と供給の「差」

2.地域情報の「差」

3.心のダメージの「差」

《 Solution 》

経験/情報/想いを共有する



本当の被災者支援へつなげるスタートとなる

《 Action 》

前期

・ HPを作る

中期

・ 共有の機会を設ける

後期

・ 共有した感想をHPに挙げていく

《Vision》

差 → 絆

誰にも届く情報伝達

グループ5

遠藤亮子、大橋一揮、日下マリア、
佐々木ひとみ、中谷匡美、日高慎、森竜二

遠藤亮子さんの体験談

問題点

どうして支援物資などの情報がまわってこないのか・・・

情報がすみずみまで届いていない

- 近所の人バラバラになった
- パソコンが流された
- ネットを見ない人もいる etc

解決案

スーパー、コンビニ、学校、バス、温泉などの
多くの人が集まる場所で、もっと情報を
発信していったらどうだろうか

具体的なプロジェクト案

「高校生の情報宅急便」

役割分担

1. 情報収集係
 - 行政(役場)から
 - NGOから
2. 情報の選別、まとめ係
3. 各機関への交渉係
4. 音声の制作係
5. 全体の指示係
6. 本部への連絡受付係

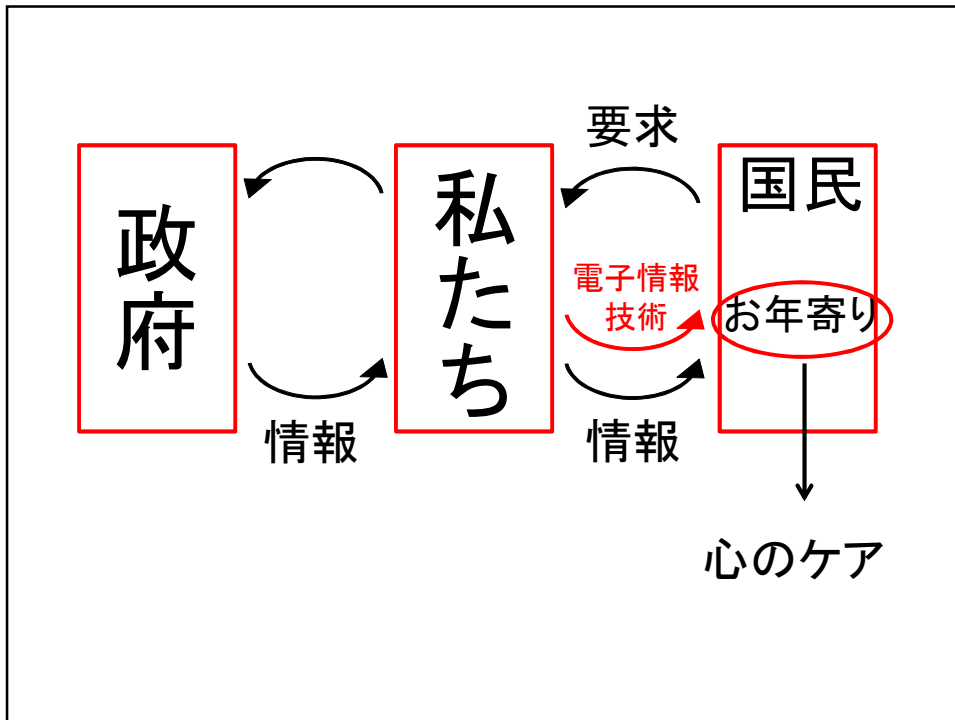
私たちの被災者支援への提言

6班

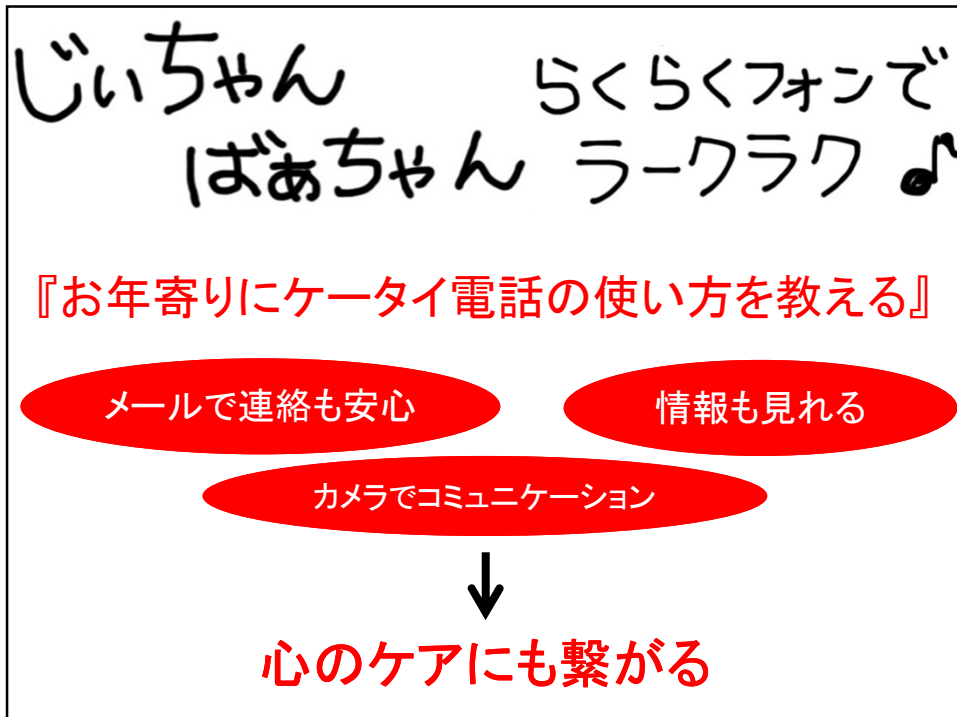
阿部里紗／小野寺結衣／小山恭文
佐藤楓／菅野翼／長岡輝／松本薫

送り手と受け手の 情報の不一致

1. 私達のもとまで物資が届かなかった
2. 正しい情報がないと不安になる
3. いつまで仮設にいればいいの？



じいちゃん
ばあちゃん
らくらくフォンで
ラークラク ♪



プロジェクト概要

- 対象地域例: 宮城県亘理町
- 時期: 春休み・夏休み・冬休み
- 役割: 運営・調整担当: 佐藤
ケータイ担当: 長岡
メール担当: 松本・小野寺
カメラ担当: 阿部
ウェブ担当: 小山
まとめ・スケジュール担当: 菅野

プロジェクト概要

- 対象地域例: 宮城県亘理町
- 時期: 春休み・夏休み・冬休み
- 役割: 運営・調整担当: 佐藤
ケータイ担当: 長岡
メール担当: 松本・小野寺
カメラ担当: 阿部
ウェブ担当: 小山
まとめ・スケジュール担当: 菅野

被災地に寺子屋を

~ BEYOND Generation ~

チーム7

竹山まい 松田孝晴 今井友理恵 元川裕太 石川ひとみ 伊藤裕太 菊池春花

問題点

- ✓ 被災地の子供達の
 - 判断力、思考力不足
 - ト라우マ

解決策

- ✓ 被災者による
 - 遊びを通じた学びの場
 - 心のケアをする場



寺子屋

具体案

- ✓ 被災3県に1つずつ設置

Ex.) 児童センター、小学校

- ✓ 各自の役割分担

BEYOND
Generation

～ 世代を超えた絆 ～

世代を超える作戦

グループ8

今井千寿瑠、岩崎開、遠藤見倫、尾形沙樹、
小野寺栄、佐々木優介、杉山隼人、

安全なまち

人と人がつながるまち

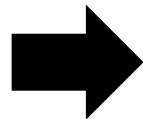
- 避難の知恵を共有
- 復興への情熱
- 精神的な支え

課題

- インフラで防ぎきれなかった
- 自分たちで命を守らなければならなかった
- 個人個人での知識不足や意識の低さ

解決策

- 自分たちの経験を形にする！
- 映像、イベント、ネットを通じて広める！

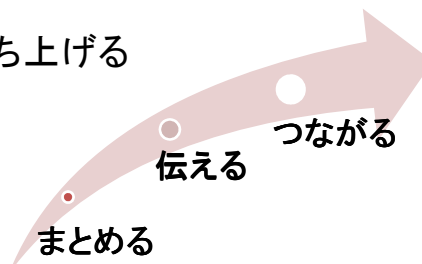


若者へ

- 災害の経験が少ない
- 今後の未来を担うのは若者
- 世代を超えてつなげる経験

世代を超える作戦内容

- 経験や情報をまとめる
- 楽しく発信する
 - ホームページを立ち上げる
 - 経験談
 - ショートムービー
 - Q&A
 - イベント情報
 - イベント企画
 - 印刷



発信のアイデア

- ジュニアリーダーとの連携
 - ちびっ子避難マラソン大会
 - 防災フェスティバル
- お祭りの場所で発信
- ライブ活動
- 出版、チラシ印刷、町内会報など

役割

- イベント担当
 - 尾形沙樹
- 海外広報担当
 - 小野寺栄
- サウンド担当
 - 佐々木優介
- HP担当
 - 今井千寿瑠
- コンテンツ担当
 - 遠藤見倫
 - 杉山隼人
 - 岩崎開

提言発表 —安全なまちづくり—

9班: 西城国琳 佐々木奈菜
佐藤慶治 鈴木聡
目黒妃呂美 千葉真英
布田ちはる



①問題点

“情報と教育”

①問題点

全ての人に正確な情報が届かなかった
(情報)

情報が届いたにもかかわらず、
先入観や知識のなさから誤った判断をし
てしまった
(教育)

②解決策

- デジタルだけでなく
アナログなアプローチ
- 個人・組織各々への働きかけ
- 瞬時に情報をビジュアル化

③具体的なプロジェクト案

- “呼びかけ団”プロジェクト
- “伝承鳩”プロジェクト

みんな逃げっぺ！プロジェクト ～安全なまちづくり～

チーム10
遠藤有紗 小澤由佳 佐藤滉
高橋聡 長谷川健太 柳澤一紀
梁田麻佳



体験①

・小学生や高齢者、障害者の避難が大変だった。

理由

津波が来るタイムリミットと
避難所までの距離



体験②

・どこに逃げるべきかわからなかった。

理由

情報が入らなかった。

情報が錯綜していた。



コンセプト

『逃げやすい街づくり』



解決案①

・避難ルート、避難場所の整備

→案内板(ユニバーサルサイン)の設置



解決案②

・防災教育の充実

→地域ぐるみの防災訓練とコミュニケーション



解決案③

・GPSと緊急地震速報の活用

→緊急地震速報とマップ(現在地と近くの
避難所へのルート案内)の**連携**



解決案の実現に向けて

- ①案内板を作り、貼りまくる
- ②学校・企業・地域住民での合同避難訓練の呼びかけ
- ③GPS(マップ)+緊急地震速報のアプリ開発の提案



解決案の実現に向けて

・月に1回、第1土曜日まとめ役に報告

→実施地決定(東海・東南海地方)

→(案内板のサンプルと合同防災訓練の企画を持って)全員で現地入り

→自治体・企業等と相談



解決案の実現に向けて

→①と②をその地域で実施(案内板貼りまくりと合同防災訓練)

※時間差(まず①をやり、1カ月後に②を)

→結果を見て改善→実施→改善→東北へ応用

解決案の実現に向けて

- ・下調べ: 避難所を調べる
(遠藤、佐藤、柳澤)
- ・製作: 案内板の製作(絵・ラミネート)
(小澤、高橋、長谷川)
- ・まとめ: 全体の指揮、自治体や参加者への確認
(梁田)
- ・案内板の貼り付け・提案・防災訓練
(全員)



以上

